

交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

第1回 酪農応援団の獲得を目指す「チーム交牧連」

交流から得た気づきを 自らの牧場の発展につなげる

地域交流牧場全国連絡会中央事務局((一社)中央酪農会議業務部) 阿南 恵美香

今月からのこの連載では、地域交流牧場全国連絡会(交牧連)の会員が持ち回りで、交牧連に加入したきっかけや自身が取り組む消費者交流活動、交牧連への思い、飼養管理のこだわりなどを伝えてもらいます。

第1回目は交牧連事務局を担当する筆者が交牧連の成り立ちや歴史、現在の活動状況さらには会員にとっての存在意義などを紹介します。

交流活動に力入れる全国の酪農家が 緩やかに結び付く組織

交牧連とは地域交流牧場全国連絡会の略称で、かいつまんでいうと、消費者との交流活動を行う酪農

家などで構成されるネットワーク組織です。「酪農生産者同士が交流・意見交換する場をつくり、都市生活者や地域住民との交流活動や教育的活動を進めていくことで、日本酪農に対する理解や支援を獲得すること」を目的に、1999年7月に発足しました。

「ネットワーク組織」とはどんな組織なのでしょう？調べてみたところ、「従来の階層型組織よりも指示命令系統が相互依存型であり、緩やかな提携関係で結ばれている組織構造」とあります。もう少しかみ砕くと、「上司も部下もなく、個々がお互いに緩やかに結びついている組織」という感じでしょうか。交牧連にも、会長、副会長など役職はありますが、酪農家などの会員同士が緩やかに結び付きながら日本酪農の応援団を増やすという大きな目標に向かう一つの「チーム」として活動している—そんな組織だと説明できます。

全国の酪農家の 1/50が会員

交牧連が設立された99年当時、酪農家戸数が減少の一途をたどる中、自立心が強く熱い思いを持った酪農家たちは生き残りをかけて牧場を開放して地域住民との交流を図ったり、個性的な酪農製品を開発したりするなど地道な取り組みを進めていました。



2019年10月、北海道釧路市で20周年記念式典を開催



2011年に開催した東日本大震災復興支援もーもースクール(宮城県・石巻市立北上小学校)



コロナ禍にあってもリモート会議アプリを積極活用(2021年度全国研修会)

また、子どもたちの自立心、忍耐力、創造力、協調性などが弱まっていることが指摘される折、乳牛という生き物、酪農家の暮らし、生産活動などに触れるを通して、食や命について学び、自らの「生きる力」を育ててもらおうとする「酪農教育ファーム活動」が全国の牧場で始まっていました。

しかし、こうした活動の多くは独自の取り組みで、それぞれの持つ知識や情報、経験を共有する機会もほとんどありませんでした。共通の思いを持つ酪農家同士が、個性を尊重し合いながらも、強固で幅広いネットワークを結ぶ必要があるのではないかと。そうした酪農家たちの思いが一つになって、交牧連が設立されることになったのです。

設立当初130だった会員数は、近年は300前後で推移しています。日本の酪農家が減少する状況でも会員数を維持しており、全国の酪農家戸数1万3,900戸の約1/50が会員になっていることとなります。正会員になれるのは家畜を飼養している牧場および農場です。主に酪農家ですが、観光牧場や乳牛を飼養する学校なども加入しています。家畜を飼養していなくても準会員になることができます。

コロナ禍でも工夫して つながりときずなを維持

交牧連では14年度から、「つなぐ 続ける 育てる」というスローガンを掲げ、これに沿って活動を進めながら、組織の目的である「日本酪農への支援や理解の獲得」のさらなる達成を目指しています。

活動は①個々の会員②地域ブロックごと③全国—の3つに大別できます。個々の会員牧場の活動としては、牧場に子どもたちを受け入れて行う酪農教育ファーム活動や、特色ある酪農製品の開発・販売などがあります。地域7ブロック(北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿・中国・四国、九州)ごとの活動では、会員対象の各種研修会や勉強会、学校に牛を連れて行く「もーもースクール」、学生との

交流会などそれぞれ特色ある取り組みが実践されています。最近の例では、2月19日に関東ブロックが「酪農家・酪農関係者と学生の オンライン交流会」を開催しました。

全国規模での活動としては、会員対象の研修会や勉強会、会員間の情報共有のための機関紙発行、ホームページやフェイスブックなどを通じた情報発信、個々の会員の活動に役立つツールの共同購入、防疫喚起ツールの作成などがあります。また、全国および地域ブロックの一部では若手会員の相互研さんのためのクラブ・ユース事業にも力を入れています。さらに、生乳廃棄の回避のため、会員SNSから消費者に向け「私の好きな牛乳の飲み方」を発信する取り組みも行っています。

こうした活動を行うに当たり、大切にしてきたのは会員同士の交流です。会員が直接顔を合わせ、言葉を交わし合い、新たな気づきを得て、それを自身の経営に持ち帰る。仲間ができ、遠くにあっても互いに支え合い高め合う。これが交牧連の本質だと思います。しかし残念ながら、コロナ禍のためそうした活動がほとんど実施できない状況が続いています。それでも、ウェブを活用するなどなんとか工夫して、つながりと絆を維持しようと頑張っています。

コロナ禍がいつ収束するか先行き不透明ですが、担当者としても22年度は会員の皆さんの顔をじかに拝見できるよう願っています。

プロフィール あなん えみか

2004年(社)中央酪農会議に入る(13年一般社団法人に移行)。管理部を経て14年から業務部に所属し、地域交流牧場全国連絡会(交牧連)、酪農教育ファーム、会報誌「ミルククラブ」などを担当

交牧連に関する問い合わせ先

(一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
メール:koubokuren@churaku.jp
ホームページ:https://www.dairy-farm.jp/
フェイスブック:https://www.facebook.com/koubokuren



【交牧連 HP】